

「掘る女」を観た、「掘りたい女」

(染谷商会縄文部 染谷有香)

縄文に魅せられた日から、その時代に思いを馳せるようになり、脳内にタイムマシンが作られました。

自然に想像力・妄想力が強化され、今までとは違う角度から物事を見られるようになり、視野が広がりました。

日々、遺構・遺物が発掘・調査・研究されているからこそ、具体的な想像ができる、有難く思っています。

日常を見渡すと、あると便利ではあるものの、なくても生きていける数多くの物に囲まれています。

物に限らず、情報の多さに脳が処理できていないような違和感を覚えます。

そんな時、生きるために必要な物と、大小さまざまな土偶に囲まれている縄文時代の生活を想像することで、思考が整理されます。

生きるために生きる時代を経て、生きる意味を問えることが贅沢に思え、物事を謙虚に受け止められます。

「掘る女 縄文人の落とし物」は、是が非でも観たい作品でした。

発掘に携わるのはどんな人たちなのか？

予告編で観た、女性たちの姿と笑顔が脳裏に焼き付いていました。

単純に「観たい作品」から、「縄文や考古学に興味のある方・ない方、多くの方と共に作品を観たい」へ変わった時、自主上映の話がとんとん拍子に進みました。

制作に携わっている方々にお会いし、人間の持っている探求心のすばらしさをあらためて感じました。

映画を観た方から、「考古学・縄文を知りたくなった」、「掘りたくなった」、「茅空に会いに行きます」等々、多くの感想と宣言をいただきました。

私自身「掘ってみたい」から「掘りたい」へ気持ちが固まりました。

土偶・土器が出土し、現代の光を浴びる瞬間を見ると、まるで大地の出産に立ち会ったような気持ちになりました。

興味のアンテナは面白いです。

縄文文化交流センターで展示物に触れ、国宝土偶、「茅空」に魅せられてから、心に縄文アンテナが立ちました。最初は受信専用アンテナでしたが、今は受発信可能です。

この映画を観た方々が、受け取ったものを何らかの形で発信していることを想像すると、とても嬉しい気持ちになります。

映画を観るまで、土偶や土器を見たことがなかった女性が「映画を観ているうちにだんだんと愛着が湧いた」と言っていました。

何を感じ、受け取るのかは人それぞれ違うからこそその楽しさがあります。

多くの方にお勧めしたい、心に残る作品に出会い、自主上映できたことが、とても嬉しく有難いです。

これから、掘りたい女から掘る女・または掘った女へ進化してまいります。

北の縄文

HOKKAIDO JOMONCLUB NEWSLETTER

CONTENTS

- P1 巻頭あいさつ
- P2-4 縄文イベント情報・白滝遺跡群
- P5-6 北の縄文文化回廊を巡って(第1回)
- P7 スタッフ体験記
- P8 「掘る女」を観た、「掘りたい女」編集後記

巻頭あいさつ



北の縄文道民会議 副代表 小金澤 健司

公益社団法人 北海道観光振興機構 会長
株式会社アイティ・コミュニケーションズ 代表取締役会長
北海道マーケティング総研株式会社 代表取締役
クール北海道株式会社 代表取締役

「北海道・北東北の縄文遺跡群」世界文化遺産登録が、コロナ禍の2021年7月に決定されましたが、2022年10月に海外からの入国規制の緩和や、全国旅行支援の実施など、それぞれの遺跡群に多くの観光客が訪れ地域交流が活発化してきております。

「北の縄文道民会議」は設立以来、地域の方々と一体となって10年以上の間、地道に広報や地域づくり等の活動を継続して来られ、世界文化遺産の登録に結びついたと言っても過言ではありません。

当機構では、北海道・北東北の縄文遺跡群を核として、周遊ルート上にあるウポポイ(民族共生象徴空間)や、洞爺湖有珠山ジオパークなどを組み合わせた旅行商品の開発を積極的に推し進めています。特に、教育旅行(修学旅行)誘致では、2022年に学習指導要領(高校生)が改訂され、修学旅行の位置づけの中で「探究活動」を取り入れたプログラムの提案が重視されるようになっております。1万年以上前に本州方面と異なる独自の文化を形成していた北東北・北海道の採集・漁労・狩猟を基本とした定住生活などを学んでいただき、自己の在り方生き方を考えながら理解を深める機会としていただきながら、将来の北海道のファンになっていただきたいと考えております。

折しも、2023年9月には、アドベンチャートラベルワールドサミット(以下、ATWSという)がアジアで初めて日本で開催され、欧米豪を中心に約800名の関係者が北海道(札幌)において一堂に介するとともに、道内各地の体験プログラムに参加します。アドベンチャートラベルは、自然、アクティビティ、異文化交流の3つの要素のうち2つ以上で構成される体験型旅行形態とひとつとされており、滞在日数も長く地域への経済波及効果が期待されます。

2022年10月に、ATWS2022が開催されたスイス・ルガーノ市において、次期開催地である北海道の魅力やATWS北海道実行委員会の副代表として北海道独自の自然環境や文化、食、アウトドアなどについてPRして参りました。特に道内各地でブドウ栽培が盛んになった結果、ワイナリー的大幅な増加やワインそのものに対する評価も高まっており、今後、ワインと地域の食材等を組み合わせたモデルコースの発信や、こうした北海道の価値を、ストーリー性を持たせて観光客に伝えるツアーガイドの育成を積極的に展開して行きたいと考えています。

引き続き、「北の縄文道民会議」をはじめ、関係機関の皆様方と共に、北海道経済の活性化のため、北海道の魅力の発信と地域づくりを積極的に推進して参ります。



編集 後記

・会員の皆様、あけましておめでとうございます。「北の縄文」26号をお届けいたしました。北海道観光振興機構会長・小金澤健司様、北の縄文道民会議代表・荒川裕生様からご寄稿をいただきお礼申し上げます。

2023年の干支(えと)は「癸卯(みずのと・う)」。これまでの努力が身を結び、勢いよく成長し飛躍する年」といわれます。世界遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」を守り応援する諸活動が、ピョンピョン拍子(?)で前進する1年であることを希う次第です。私ども編集局一同は、「縄文パワー」で頑張っております。

(T・H) (U・A) (Y・T)

編集・発行：世界文化遺産登録の縄文遺跡群と全北海道の縄文遺跡群の活用を推進する道民会議
編集長 谷 紘道 編集委員 梅田 彩加、依田 妙恵
TEL:011-221-1122 FAX:011-221-0117 <http://www.jomon-do.org/> E-mail ebisutani@chuo-bus.co.jp



ほっかいどう遺産 WAON

「世界文化遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」応援カード」誕生



～縄文応援カードの誕生エピソード～

鈴木直道知事が、WAON カードの縄文バージョンを作れたら、世界遺産に登録されたことのPRだけでなく、より長いスパンで縄文世界遺産を応援してもらおうことになると思い、青柳社長に話しを持ちかけ、イオン北海道様と北海道遺産協議会様のご協力により実現にいたしました。

北海道遺産 WAON「世界文化遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」応援カード」のPRイベントが、9月30日にイオン札幌発寒で行われました。鈴木直道知事、イオン北海道の青柳英樹社長、北海道遺産協議会の石森秀三会長によるトークセッションでは、この縄文応援カードの誕生秘話について語られました。

縄文応援カードは、発行枚数 10,000 枚で、北海道内の「イオン」「マックスバリュ」「ザ・ビッグ」など 124 店舗で販売中。

このカードをイオングループ各店舗や WAON 加盟店で利用すると、その利用金額の一部が北海道遺産協議会に寄付され、各地の北海道遺産を次の世代に引き継いでいく活動に役立てられます。



(写真提供：遠軽町教育委員会)

白滝遺跡群の黒曜石が「最古の国宝」に！

遠軽町の白滝遺跡群から出土した黒曜石の石器や、石器製作の際に出た破片を接合した「接合資料」などが国宝に答申されました。これらは、約 1 万 5 000 年前から 3 万年前の後期旧石器時代の期間に作られたもので、今回の答申は、日本の旧石器時代の石器制作の変遷や各種石器の組み合わせをよく示す資料として歴史的価値が改めて評価されたものです。

白滝ジオパークセンター交流センターでは、火山活動による黒曜石誕生の物語を展示と映像で解説しています。



(写真：佐藤雅彦撮影)

出土品の多くは、遠軽町埋蔵文化財センターで展示されています。



(写真提供：遠軽町教育委員会)

また、遠軽町では、2023年7月3日から6日まで国際黒曜石会議が開催されます。この会議は国内外から研究者が集う国際シンポジウムですが、白滝ジオパークの環境を活用し、研究者から地域住民まで参画できるプログラムが予定されているそうです。

2023年は、遠軽町があついですね！！